

平成28年度事業計画

平成28年度の当センターは、新法人移行後5年目を迎える節目の年であり、今般新たに策定をした第五次中期計画の重点項目「会員拡大と組織強化」「就業機会の確保と拡大」「安全・適正就業」を主軸に事業活動を行なっていきます。

さて我が国は、急速な少子高齢化を伴う人口減少社会を迎え、労働力不足を含む社会活力の減退や、地域コミュニティの希薄化など、様々な問題が表面化をしています。特に高齢者自身にとっては、年金・医療・介護問題や孤独死など生活に直面する課題が山積です。

このような中、シルバー事業は高齢者に「居場所」と「出番」をつくり、就業やボランティアを通じて地域社会の支え手になるとともに、高齢者自身の生きがいや健康維持に寄与する団体として、まさしく時代の要請を受けながら更なる発展をしていかなければなりません。

一方、町田市シルバー人材センターの現状は、継続雇用制度の定着等による入会者の減、コンプライアンス指導強化等による契約金額の減、補助金の見直し等、引き続き大変厳しい環境におかれています。

本年度は、このような閉塞感を打開するための新たな取組みとして、実施主体である「東京しごと財団」のもとに行う一般労働者派遣事業の開始や、新たな就業確保策として介護予防・日常生活支援総合事業への参入を目指していきます。

そして、シルバー人材センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」のもと、全会員が一致団結をしながら、スローガンの“心いきいき生涯現役”を目指し、この難局を乗り切ってまいります。

項目別には、以下のとおりです。

広報・周知活動

・シルバー会報誌「銀齡だより」を全会員に配付し、理事会や各委員会における諸課題や動向の他、センター情報の共有化を図る。

- ・リーフレットの配布や「広報まちだ」への掲載等、市民に対してシルバー事業の周知と理解に努めるとともに、より詳細な情報を提供するためホームページの充実を図る。
- ・シルバーのイメージアップのため、宣伝部隊「夢舞シルバー100」のイベント参加や「シルバー連まちだ」の活動、また公認ボランティアによる地域貢献活動を積極的に行なう。
- ・地域における連絡・情報拠点を引き続き設置する。

就業拡大・適正就業

- ・既存契約先の継続受注や職域拡大、並びに新規就業先の開拓のため、企業や民間団体を中心に訪問活動を実施する。
- ・請負や委任に馴染まない地域ニーズに応えるため、実施主体である「東京しごと財団」のもとに行う一般労働者派遣事業を開始する。
- ・介護保険制度の改正に伴う介護予防・日常生活支援総合事業に参入し、女性会員の就業機会の確保を図る。
- ・会員及び地域の自発的活動としての就業開拓行動を引き続き推進し、新規顧客の獲得を図る。
- ・同一作業場所における長期継続就業会員の交代促進、並びにワークシェアリングを実施し、就業機会の確保を行なう。
- ・市の観光関連事業（薬師池公園、北部丘陵）等について、就業機会の場として働きかけを行う。
- ・コンプライアンス指導強化のもと、適正な契約の推進と現場の適合を引き続き行なう。

調査研究・相談

- ・入会希望者の意識と、シルバーに対する理解度を把握するため、説明会の参加者全員に「入会アンケート」を実施する。
- ・シルバーに所属する意義や満足度を把握するため、全正会員対象の意識調査を実施する。
- ・生きがい就業の介護予防効果について継続的に分析する為、引き続き「健康・生活アンケート」を実施する。
- ・窓口における随時相談の他に、定例の就業相談会を毎月実施する。
- ・未就業会員の現況調査を行ない、未就業の理由を探るとともに、就業希望の会員に対して合同相談会を開催する。

研修・講習

- ・入会対象者全員及び既会員対象のマナー研修及び安全研修を実施する。
- ・地区担当委員及び班長研修を行ない、センター現況や地域班の役割について理解を深める。
- ・仕事別グループ研修の開催や自主ミーティングを奨励し、円滑な就業環境の確保並びに作業の標準化及びレベルアップを図る。
- ・受注の多い技能系職種について後継者育成のための技能研修を行なう。
- ・地域の支え手としてシルバー会員の知識を深めるため、「認知症サポーター養成講座」を引き続き実施する。
- ・上部団体である「東京しごと財団」及び第七ブロックの研修に積極的に参加する。

組織整備・活性化

- ・定例理事会及び必要に応じた臨時理事会を開催し、重要案件の決定や諸規程の整備等を行なう。
- ・六つの専門委員会を毎月開催し、所掌事項の検討や計画及び実施を行なう。また各委員会間の連携を強化し、合同委員会を通じ情報共有を含めた意思の疎通を図る。
- ・役員・地区担当委員・班長の合同会議を開催し、事業報告を含めたセンターの現況を共有する。
- ・地域連絡会を積極的に開催し、センターの方針や現況の伝達、会員相互の情報交換を行なうとともに、地域班組織の活性化を図る。
- ・「一人一会員入会運動」を奨励し会員拡大を図る。
- ・入会率の低い地域や女性会員増強に特化した勧誘活動並びに入会説明会を実施する。

財政の安定化

- ・発注者に対し代金のコンビニエンスストアによる入金手続きを推進し、支払の利便性を図るとともに、未収金問題の改善や資金回転率を高める。
- ・全会員に向けて会費自動引落しの協力依頼を行ない、支払の利便性並びに事務の軽減及び効率化を図る。
- ・「銀齢だより」に一般有料広告の募集を始める。
- ・経費の効率的な活用等の自助努力と並行しながら、行政に対して補助金の維持・増額の理解と支援の働きかけを行なう。

安全管理

- ・実施計画に基づき、安全就業基準の周知徹底を含む啓発活動を積極的に行なう。
- ・「安全心得カード（オレンジカード）」の携行と緊急連絡先の記入の徹底を図る。
- ・各就業現場における準備運動を実施する。
- ・安全情報誌の発行や、ポスター掲示並びにリーフレット配布、更にグループ研修など様々な機会を通じて、事故・再発防止を含む安全情報の提供を行なう。
- ・就業現場の巡回を行ないチェックリストに則した指導及び意識啓発を行なう。
- ・「東京しごと財団」や第七ブロックが主催する安全研修に積極的に参加し、自己啓発及び情報収集に努める。
- ・事故の多い職種に特化した研修を実施するとともに、専門機関と連携をした講習会を開催し、安全知識の習得に努める。
- ・センター全体の安全就業の現況や、仕事別グループ毎の安全対策の共有を図るため、職種横断的な「安全大会」を開催する。

社会奉仕活動

- ・“ボランティア全員参加”を目指すため積極的な啓発を行うとともに、地域班での活動を促進するため活動マニュアルを作成する。
- ・新しい公認ボランティアとして、町田警察署との「防犯活動等支援ボランティア」を開始する。
- ・仕事別グループの自発性を重んじた職種班ボランティアを推進する。
- ・市内統一ボランティア活動として、「駅周辺美化清掃ボランティア」を実施する。
- ・町田市におけるホームタウンチームの応援など、スポーツ関係の支援を積極的に行なう。
- ・福祉施設や各種イベントを中心に、お囃子・踊り・茶道等の「伝統・芸能」出張ボランティアを行なう。
- ・公益性の高い「赤十字運動支援」「民間交番運営支援」「学校支援」などの公認ボランティアを実施する。
- ・町田市との協定に基づいたシルバー業務中の「高齢者等見守り活動」並びに「市庁舎屋上花畑整備」を実施する。

以 上